

屋島小学校だより No.36 (2007.6.1)

E-mail e-yasima@edu-tens.net TEL 841-1538 FAX 841-1539
URL http://www.edu-tens.net/syoHP/yasimaHP/

“子どもは友達のなかで成長する” 付き合いは人生の勉強

10年ほど前のことです。「友達はどのようにしたらできるのですか」と訊かれて、その人は驚いたそうです。尋ねた人が大学生だったからです。そんなことはあるはずがないと思われるかも知れませんね。しかし、近頃の状況をみると、まんざら嘘ではないと思えるようになってきました。小学校でも、このままの状況では交友関係が破綻する子も出てくるのではないかとと思われる出来事があります。

- | | | |
|-----|--------------|--------------------------|
| その1 | 地域に子どもがいない | 毎日、スポーツ少年団や塾などに行っていると安心だ |
| その2 | 車で送り迎えする | 送り迎えをすると安全だし、寄り道をしないでよい |
| その3 | 同じ(学年)子とだけ遊ぶ | 小さい子と遊ぶと、何かあると責任を問われる |
| その4 | 外遊びをしない | 目が届かないので不安だし、悪いことも覚えてくる |

最近、子どもに関係する記事や校内のトラブルをみると、人間関係に絡むものがほとんどです。“いやな事を言われる”そんなことは昔からあることで、気にするまでもないと言われる方もいます。当時はそんな対応でよかったのですが、今はそのまま放置できない状況に陥っていきます。それが「いじめ」への発展です。



なぜ、そのようになっていくのでしょうか。その状況や原因・背景は一律ではないと思われませんが、このなかでは、学びの機会の減少と、トラブル解決の体験不足が気がかりです。学校では、道徳や特別活動など、あらゆる機会を通して“相手の気持ちや立場を考える”こと“相手が嫌がることを言わない”という指導をしています。しかし、同じ言葉を相手に投げかけても、反応はさまざまです。ある時は反発として返ってくることもあれば、聞き流してくれるときもあります。ここが難しいところで経験知が要求されます。同じ事を同じ友達に言っても、その日の気分によって違った反応があるのです。それだけに、友達との関係は複雑怪奇で経験の蓄積が肝要です。

自分は今まで、そんなに複雑に考えて友達付き合いをしたことがないと、思っている人も多いことでしょう。それは、知らず知らずのうちに相手を知る体験をしてきたからです。よさも弱点も知って、友達としてよりよい付き合い方を見つけたのです。親友になるまでには、多くの時間を共有したはずです。友達を知るには、自由に本音が出せるところが必要です。それは、遊びの時であったり、登下校であったり、旅行や宿泊で寝食をとる時です。時には失敗もあり悩みも出てきます。そこで、自分を見つめ、相手の気持ちを考えて素直な自分を出すことで親友と言われる関係を構築したのです。

子どもと付き合う大人は、友達づくりの機会を奪ったり、避けるようにしたりしてはいないでしょうか。その点を見直すことも大切です。兄弟姉妹が少なくなった少子化社会、大人との生活ではこうした経験ができないのも事実です。子どもにとって、人間社会の勉強をする機会が豊富で、いくらでも繰り返してきた昔の時代と違い、今は少ない機会を失わず、しかも有効に活用する工夫や環境設定をしていかなければなりません。

“子ども社会とその活動を近くで見守り 手を出さない” **それが基本**です。